

会 議 録

会議名		令和2年度 第2回 大野北地区まちづくり会議			
事務局 (担当課)		中央区役所 大野北まちづくりセンター 電話 042-861-4512			
開催日時		令和2年8月25日(火) 19時00分～20時05分			
開催場所		大野北公民館 大会議室			
出席者	委員	19人 (別紙のとおり)			
	その他	1人 公民館館長代理			
	事務局	2人 まちづくりセンター所長、同主査			
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数
		2人			
公開不可・一部公開不可の場合は、その理由					
会議次第		1 あいさつ 2 報告事項 「令和2年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会」の開催について 3 議 題 地区課題の検討について 4 出席委員からの情報提供 5 その他 (1) さがみはら SDGs パートナーの募集について (2) 次回日程について 6 閉 会			

審 議 経 過

1 開 会

山口会長あいさつ

(以後進行は山口会長)

2 報告事項

・「令和2年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会」の開催について

今年度のまちづくりを考える懇談会は、10月30日(金)午後7時から大野北公民館大会議室にて開催されることについて、地区まちづくり懇談会実施要領(資料1)を用いて事務局から報告した。

3 議 題

・地区課題の検討について

地区課題の検討方法については、前回のまちづくり会議において、昨年度の「地区課題」の内容を基本とすることとなった。

全体会(本会議)に先立って行われた役員会において検討した結果、昨年度の懇談会での委員の発言要旨を整理した項目に対して市の考えを伺い、さらに議論を深めてはどうかとの検討結果になったことから、昨年度の懇談会での12名の委員の発言要旨から、類似している内容を集約(グルーピング)したものの(資料2)を事務局で作成し、これに対して各委員から意見を伺った。

結果、テーマシート中の「取組状況」の内容については、資料2の集約結果のとおり記載することとなった。なお、テーマシートの体裁については、市の担当部局(市民局)と調整のうえ事務局で作成することとし、役員会での検討を経て、次回のまちづくり会議に提示する予定である。

<主な意見>(委員の発言)

昨年度については、12名の委員に発言いただいたが、これらの発言に対して、市からは個別の回答がなかった。時間的な制約もあるので、今年度については、資料2別紙にあるとおり、これらの発言を集約したかたちで懇談できればよいと考える。

公民館の配置のあり方については、昨年度の懇談会において市からは、今後の人口推計、公民館候補地の選定、確保等を考慮すると難しい状況であり、大野北中学校内の生涯学習ルーム1室も活用できるとの回答であった。より踏み込んで議論するのであれば、大きな圏域に公民館が一つしかないという不平等感を、公民館を複数整備する方法以外でどのように改善できるかについて、市の考えを伺いたい。

○公民館の用地の確保が困難とのことであるが、例えば、大野北中学校は、広大な敷地を有している。敷地があれば、あとは建設費用だけの問題である。本当に検討したのか疑問である。また、新型コロナウイルス対応や昨年台風被害の対応で、市の予算はひっ迫していると思われる。基本計画(案)では、鹿沼公園内に公共施設を再整備する案が示されたが、本当に再整備ができるのか疑問である。これらのことを考慮するのであれば、質問の内容を変更すべきとも考える。

○これまでに延べられた委員の意見で、資料2別紙の集約欄には具体的に記載がないものについては、集約欄のBに記載されている「図書館と公民館の望ましい姿とは」に包含されていると考えることができるのではないか。

○集約欄に記載されている、公共施設再整備に係る総括的な内容の質問に対する市の基本的な考えを最初に伺ったうえで、集約欄に記載のない各委員の考えがあれば、その考えを発言していただき、市の回答を引き出すという流れで懇談を進めていければよいと考える。

4 出席委員からの情報提供

(1) 大野北地区社会福祉協議会 小野澤委員

毎年9月に敬老事業を実施しており、対象者に祝品を配布しているが、今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、祝品の配布については、手渡しから郵便受けに投函する方法に変更して実施する。また、10月に実施予定の赤い羽根共同募金についても、同様に接触を極力避ける方法により実施する。

(2) 青少年指導委員大野北地区協議会 高橋委員

前回のまちづくり会議においても情報提供したが、「おうちで出来るゆめ教室」という動画を市HPにて本日より公開している。身近な材料を使ってできる工作を紹介しているので是非ご覧いただきたい。

(3) 大野北地区自治会連合会 山口会長

市から協力の要請があった国勢調査については、予定どおり実施されるとのことであるが、敬老事業や募金と同様、接触を極力避けて実施するとのことである。

5 その他

(1) さがみはら SDGs パートナーの募集について

7月に本市がSDGs未来都市に認定されたことに伴い、持続可能なまちづくりに取り組んでいただける企業・団体等を募集していることについて、事務局から紹介した。

(2) 次回日程について

今回は、令和2年9月25日(金)午後7時から開催予定である旨を事務局から報告した。

6 閉会

小川副会長が閉会

以上

令和2年度 大野北地区まちづくり会議委員出席者名簿

	氏名	所属団体等の名称	出欠席
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	出
		大野北地区社会福祉協議会	
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	出
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	出
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	出
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	出
6	小川 紳夫	大野北公民館	出
7	田加井 政男	交通安全協会	出
8	荻原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	出
9	原田 武久	大野北地区老人クラブ連合会	出
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	欠
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ運営機構	欠
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	出
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	出
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	出
15	柴沼 敦子	小学校	欠
16	馬場 尚子	中学校	出
17	小出 茂	小・中学校PTA	出
18	平井 昇	青山学院大学	欠
19	河本 真治	桜美林学園	出
20	白石 一郎	麻布大学	欠
21	神谷 恵子	福祉グループ「輪」	出
22	伊藤 憲秀	大野北第1高齢者支援センター	出
23	木幡 一博	大野北第2高齢者支援センター	出
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	欠
25	渡辺 章	淵野辺駅南口商栄会	欠
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	出

令和2年度 第2回大野北地区まちづくり会議

日 時 令和2年8月25日(火)
午後7時から
場 所 大野北公民館 1階 大会議室

次 第

1 あいさつ

2 報告事項

「令和2年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会」の開催について【資料1】

日 時 令和2年10月30日(金) 午後7時から

場 所 大野北公民館 大会議室

3 議 題

地区課題の検討について【資料2】

4 出席委員からの情報提供

5 その他

(1) さがみはら SDGs パートナーの募集について

(2) 次回日程について

日 時 令和2年9月25日(金) 午後7時から

場 所 大野北公民館 大会議室

以 上

令和2年度 大野北地区まちづくり会議委員及び役員

令和2年7月28日現在

1 委員(大野北地区まちづくり会議会則 第4条別表第1)

	氏名	所属団体等の名称	役職名
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	会長
		大野北地区社会福祉協議会	会長
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	副会長
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	副会長
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	会長
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	会計
6	小川 紳夫	大野北公民館	館長
7	田加井 政男	交通安全協会	理事
8	荻原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	会長
9	原田 武久	大野北地区老人クラブ連合会	会長
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	分団長
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ	副代表
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	会長
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	地区長
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	委員
15	柴沼 敦子	小学校	共和小学校校長
16	馬場 尚子	中学校	共和中学校校長
17	小出 茂	小・中学校PTA	大野北小学校PTA会長
18	平井 昇	青山学院大学	相模原事務部庶務課長
19	河本 真治	桜美林学園	地域社会連携室兼校友課課長
20	白石 一郎	麻布大学	総務部 地域連携課長
21	神谷 恵子	ボランティアグループ	福祉グループ「輪」代表
22	伊藤 憲秀	大野北第1高齢者支援センター	センター長
23	木幡 一博	大野北第2高齢者支援センター	センター長
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	会長
25	渡辺 章	淵野辺駅南口商栄会	役員
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	支店長

2 役員(同会則 第6条別表第2)

役職	所属団体等の名称	氏名
会長	大野北地区自治会連合会会長 大野北地区社会福祉協議会会長	山口 信郎
副会長	大野北地区民生委員児童委員協議会会長	脇山 寿満子
副会長	大野北公民館館長	小川 紳夫
幹事	大野北地区自治会連合会副会長	飯田 秀雄
幹事	大野北地区自治会連合会副会長	林 知治

令和2年度 地区まちづくりを考える懇談会実施要領

1 目的

まちづくり会議の委員と市が意見交換や情報共有しながら、地域の特性や地域資源を生かしたまちづくりを協働して考える場を設け、住みよいまちづくりを推進する。

2 本年度の開催方針等

市長とまちづくり会議委員との「対話」により、地区のまちづくりについて考える懇談会とする。

3 開催単位

各地区年1回1会場とする。

4 実施方法

各地区まちづくり会議と市の協働により開催する。

5 開催日等

開催日及び会場は、まちづくり会議と市との調整により決定する。

開催時間は原則午後7時からとする。

(まちづくり会議側からの希望がある場合は、昼間の開催も可能とする。)

6 進行等

懇談会の進行等はまちづくり会議の代表者等が行い、開催時間は概ね1時間30分とする。

7 出席者

(1)地区の出席者は、まちづくり会議の委員とする。なお、まちづくり会議が特に必要とする場合には、委員以外の出席を認めることができるものとする。

(2)市側の出席者は、市長、テーマ担当副市長、区長、及びテーマに関連する局長とする。ただし、区長は副区長が、局長は部長が代わることができる。また、まちづくり会議事務局の職員、テーマに関連する部署の課長及び職員も出席できるものとする。

市長の公務日程等で対応できない場合がある。

8 懇談の内容

地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する(原則一つ)。

[テーマの考え方]

ア 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。

イ 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

9 傍聴

当日受付とし、地区以外の住民も傍聴可能とする。ただし、会場の都合により、座席数には限りがあるため、希望者が多い場合には抽選により、傍聴者を決定する場合がある。

10 周知方法

市ホームページ及び地域情報紙にて周知を行う。

大野北地区まちづくりを考える懇談会テーマ

地区のまちづくりに関して、地区でテーマを選定する(原則一つ)。

現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。

今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

テーマの概要・内容

概 要	公共施設の再整備と既存施設の老朽化対策について
内 容	<p>淵野辺駅南口周辺の公共施設の再整備は、大野北地区の長年の課題となっており、平成30年度に策定した「大野北地区まちづくり会議報告書」において、「図書館や公民館等の公共施設を集約・複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外へ文化を発信する交流拠点を創る」ことを重点分野の対応方策として取り上げたところである。</p> <p>一方で、新たな検討組織として昨年3月に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」が設置され、構成員によるグループワークやオープンハウスなど様々な取り組みが行われていることを承知しているが、未だに基本計画などの具体的な方策が示されておらず、地域住民には、不安と同時に不便さが強いられており、また、歳月の経過とともに既存施設の老朽化が進行している状況である。</p> <p>昨年度の懇談会では、まちづくり会議の構成団体としての視点から、テーマに関連した様々な課題や要望をお伝えしたが、時間的な制約もあり、市側からは踏み込んだ回答をいただけなかったと認識している。</p> <p>そこで、昨年度の懇談会での委員の発言要旨を整理した項目に対する市の考えを伺い、さらに議論を深めていくことで、淵野辺駅南口周辺の公共施設の再整備と既存施設の老朽化対策が一步でも前進する懇談としたい。</p>

上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	<p>昨年度の懇談会において、12名の委員から発言があった。今年度のまちづくり会議において、各委員の発言要旨を次のとおり整理・分類した。</p> <p>【各発言の要旨】 別紙グルーピング欄のとおり</p>
------	--

懇談時メモ

項 目	地域でできること、市がやるべきこと、協働でできること

昨年度のまちづくり懇談会での発言要旨の整理・分類

別紙

	昨年度の発言（要旨）	属性
1	○長年の課題である公共施設再整備の基本計画が示されない現状に強い危機感を持っている。大野北地区の図書館は、時代遅れの施設になっていると感じている。他都市では、従来の図書館のイメージを一新した特色のある図書館を建設している例がある。図書館等の公共施設を再整備し、市内外に文化を発信する交流拠点を作ることもシビックプライドである。	A・B
2	○市民検討会の委員に交代等があると話し合った内容も全て振出しに戻ってしまうのではないかと感じている。現在の市立図書館は、図書を貸す・返すという機能のみで、最新の図書館と比べ、機能性に欠けると感じる。また、公民館についても全体的に老朽化を感じている。少しでも早く、整備を進めていただきたい。	A・B
3	○市民検討会開始時の主なテーマは、「魅力のあるまちづくり」であった。出身地を聞かれた際に「相模原」と答えられるような環境づくりや、駅周辺の利便性や活気、市民が集える場所を提供するのが魅力のあるまちづくりである。もう一つのテーマ「次世代に引継ぐ」について、今の子ども達や若い世代に、現在の公共施設のまま引き継いで良いのか、疑問を感じる。	A
4	○現在の図書館等の建物は、子育て世代にとっても安心して子どもが本を読む場所ではないと思っている。また、災害が起きた時に甚大な被害が出る建物であって欲しくない。大野北地区は、児童数も今後数年間は増加していく状況である。老朽化した建物を早急に再整備し、安心して皆が集える場所にして欲しい。	B
5	○地区内の児童はこれからも増加する見込みである。また、教育だけではなく、地域として選ばれるまちになるためには、駅からの利便性や図書館や公民館等の公共施設が選ぶポイントになっていく。子ども達にとって住みやすく、保護者にとっても通わせやすい環境づくりがまちの活性化にも繋がる。淵野辺が良いモデルとなるような環境にしてもらいたい。	A
6	○公共施設の再整備について当初の計画では、鹿沼公園の一部に公共施設を整備すると示され、公園利用者等から景観が変わると反対された経過があるが、公園自体の環境を再編成しないと、この問題は解決ができないと思う。野球場の整備については、公園内に野球場が本当に必要なのか疑問である。	C
7	○まちづくり会議では、再整備を早く進めたいという考えのもと、検討を進めている。しかし、6万人の圏域で中心に一箇所、公共施設ができたところで、体力が低下してくる高齢者等にとって使いやすいものなのか疑問を感じる。大きな圏域に一つしか集いの場がないという不平等に感じられる状態を、改善できる手立てがないのかについても検討いただきたい。	D
8	○再整備については、未だに構想を練っている段階であり、実現性は乏しいと感じている。構想ではなく、いつ実現させるのか、具体的な計画を示してほしい。	A
9	○現在の公民館は、災害時に避難できる施設なのか疑問である。災害時に市民の安全を守る施設を整備してほしい。市民検討会では、様々な意見が出ているので、ある程度、市から方向性を示してもらい、内容を絞って検討できるようにしてもらいたい。	A・B
10	○今から人口減少に対応するまちづくりを進めていくべき。今回の公共施設の再整備に関しても、総合的な視点から考えていく必要がある。災害時に備え、一番の避難場所となる公民館を早急に建て替える必要を感じる。	B
11	○まちづくりをしていく上では、人が一番大切ではないかと考えている。今の子ども達に、相模原に誇りをもってもらえるようなまちづくりを進めていくことが、シビックプライドに繋がる。公共施設の複合化があげられているが、それぞれの場所に人が集まる施設を置いておくことで、学習場所の選択肢が増えるメリットもあるのではないかと。	A
12	○施設整備の前に、公民館の備品の補充等もお願いしたい。	D

	グルーピング
A	<p>【淵野辺駅南口周辺公共施設再整備に関する基本的な考え方】</p> <p>市民検討会において様々な取組が進められていることは承知しているが、地域としては、公共施設再整備の基本計画が示されない現状に強い危機感を持っている。また、新市長となってシビックプライド（市民の市に対する誇りや愛着等）の考え方が出てきた。</p> <p>これらを踏まえた、淵野辺駅南口周辺の公共施設の再整備に関する市長の基本的な考え方を伺いたい。</p>
B	<p>【図書館・公民館の望ましい姿とは】</p> <p>市内外へ文化を発信する交流発信拠点として、図書館・公民館は有効な施設だと思うが、再整備した場合における図書館と公民館の望ましい姿とはどのようなものと認識しているのかを伺いたい。</p>
C	<p>【鹿沼公園再整備の考え方】</p> <p>平成29年度にパブリック・コメントが実施された時の基本計画（案）では鹿沼公園内に公共施設を再整備する案が示された。また、近隣の相模総合補給廠共同使用区域内に芝生広場や軟式野球場などが順次整備されることが先日公表された。</p> <p>公園施設の経年変化が著しいことも含め、鹿沼公園の再整備についてどのように考えているのか見解を伺いたい。</p>
D	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の懇談会での市の取組状況等の説明時に回答済。 ・今後の人口推計、公民館候補地の選定、確保等を考慮すると難しい状況 ・大野北中学校内の生涯学習ルーム1室を活用してもらいたい。 ・懇談会開催後に備品補充対応済（寸胴鍋2、長机13、卓球台1）

次期総合計画・都市計画マスタープラン
大野北地区まちづくり会議報告書

平成30年9月
大野北地区まちづくり会議

目次

(課題と対応方策)

- 1 都市計画・都市整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 3 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 4 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- 5 【重点】産業・観光・商店街・・・・・・・・・・ P 7
- 6 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- 7 健康・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
- 8 教育・子育て・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
- 9 【重点】生涯学習・文化・スポーツ・・・・・・・・ P 11
- 10 地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12

(付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14

1 都市計画・都市整備

現状と課題

JR 横浜線淵野辺駅周辺には、大野北まちづくりセンターや公民館、市立図書館など、建設から40年以上が経過している公共施設が複数あり、各施設の老朽化が進行しています。また、大野北地区においても、他の地区と同様、人口減少とともに急速な高齢化が見込まれることから、淵野辺駅南口を中心として、公共施設の複合化による都市的な機能を整備して、幅広い世代が活躍することができる場を創出することが求められています。

対応方策

幅広い世代の交流の場、次世代の育成の場、地域住民と外国人の国際交流の場、地域活動の場などの様々な機能を兼ねた拠点として、淵野辺駅南口周辺に点在している図書館や公民館等の公共施設を集約、複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外へ文化を発信する交流拠点を創る（市民・行政）

- ・地域住民がアクセスしやすく、子どもから高齢者までが気軽に利用できる体育館などの運動施設を整備する（市民・行政）



大野北公民館（まちづくりセンター）



JR 横浜線淵野辺駅南口周辺

2 道路・交通

現状と課題

大野北地区では、交通不便地区における高齢者等移動制約者の生活交通を確保するために、コミュニティバスの実証運行に取り組んでいます。今後、住民がより暮らしやすいまちを形成していくために、コミュニティバス路線の維持・新設、道路交通環境の向上が求められます。

また、公共交通においても、JR 横浜線淵野辺駅は駅別乗降員数が市内各駅の中で3番目でありながら、快速列車の停車駅となっておりません。さらに、当駅利用者の安全性に配慮した、駅ホームの整備も課題となっています。

対応方策

道路交通環境の向上

- ・道幅が狭い又は交通量が多い道路（相模中央自動車学校から古淵方面への道路（市道淵野辺古淵）及び県道 57 号淵野辺駅北口入口付近交差点）に対して、一方通行、右折禁止措置、通行の時間制限などの規制をかける（行政・その他）
 - ・慢性的な渋滞発生箇所（矢渕陸橋、上矢部交差点、淵野辺駅入口交差点、青山学院大学周辺など）の渋滞緩和策の検討をする（市民・行政）
 - ・国道 16 号淵野辺十字路交差点の信号待ちの自転車・歩行者用スペースの確保、分離信号の設置等の検討をする（行政）
 - ・宮前橋を拡張する（市民・行政）
 - ・コミュニティバス路線を維持し、新しいルートを設置する（市民・行政・その他）
- 淵野辺 古淵・町田方面
- ・コミュニティバスを地域内で P R することで利用促進を図る（市民）

公共交通の利便性の向上

- ・JR 横浜線快速の淵野辺駅への停車に向けた検討を進める（市民・行政・その他）
- ・JR 横浜線淵野辺駅ホームを拡張し、ホームドアを設置する（行政・

その他)

- ・JR 横浜線淵野辺駅北口エスカレーター付近へ街灯を設置する(行政)



コミュニティバス

3 住環境・生活環境

現状と課題

大野北地区は、多くの大学が立地され、大学生などの多くの若者が集まる活気あるまちです。今後もこれらの若者が社会人になってからも、この地域に住みたくなるよう、暮らしやすいまちづくりが求められています。

また、JR 横浜線淵野辺駅前の飲食店周辺については、ごみの夜間収集が行われるようになり、衛生面において改善されました。

しかし、ごみの分別や出す時間を守らない人がいるなど、住民のゴミ出しマナーが課題となっています。さらに、地区内に在住する外国人の増加に伴い、ゴミ出しルールの周知方法についても、多言語化などの対応が求められています。

対応方策

- ・地域の住民と大学生などの若者が交流する場を設け、地域の課題を共有し、暮らしに関する情報発信を積極的に行う(市民・その他)
- ・隣接市を含めた住民を対象に、ゴミ出しマナーの啓発を行う。(市民)
- ・ゴミ出しマナーについて、多言語に対応したチラシやアプリを作成するなど、情報発信を多様化する。(市民・行政)

4 自然・環境

現状と課題

大野北地区内には、鹿沼公園をはじめ、多数の公園や広場が整備されています。しかし、多くの公園や広場では、ボール遊びやスケートボードなどの利用について制限されており、子どもたちが自由に遊べる場所の確保が求められています。

また、大野北地区においては、生産緑地が多数存在しており、緑地保全・活用に係る対策の実施が求められています。

対応方策

公園等の整備

子どもたちがボール遊びをすることができる場所や家族で楽しめるレクリエーションの場を確保するなど、地域のニーズに応じた公園、広場の利用方法の検討を進める（市民・行政）

- ・地域住民の憩いの場である鹿沼公園については、スケートボードが使用できる場所を整備するなど、多くの人を楽しみ、憩うことができるように、防犯の視点も検討しながら、全面リニューアルによる公園の魅力向上を図る（市民・行政）

その他

- ・6次産業の推進などの取組により緑地を保全、活用し、乱開発を防止する。（市民・行政）
- ・境川周辺の遊歩道や休憩所、フェンス、街灯、サイクリングロード等を整備する（行政）



鹿沼公園（白鳥池）



鹿沼公園（野球場）

5【重点】産業・観光・商店街

現状と課題

JR 横浜線淵野辺駅付近にスーパーや飲食店などが増えたことにより、買い物などの利便性が高くなった一方で、商店街では活気がなくなり、商業施設における若者離れなどが課題となっております。そのため、駅付近の商店街の活性化、近隣の大学の学生などの若者向けの商業施設の誘導などの取組により、地域の方も暮らしやすく、多くの人が集まる、元気なまちづくりが求められています。

対応方策

商店街利用者用の駐車場や駐輪場への利用を呼び掛け、利用しやすいスペースを確保することで、来場者を増やして、商店街を活性化させる（市民・行政）

淵野辺駅の北口と南口の商業施設について、それぞれの特色をいかした店舗を誘導し、エリア全体の活性化を図る（市民・行政）

- ・ JAXA や複数の大学が立地し、図書館や公園などの公共施設も充実しているという、市内でも文化的な色合いの濃い大野北地区ならではの魅力を生かしたまちづくりを行う（市民・行政・その他）
- ・ 若者向けの商業施設を誘致し、近隣の大学生などの若者の居場所づくりを行う（市民・行政）
- ・ 商店街と大学生によるイベントの開催を継続して行い、商店街の活性化を図る（市民・その他）



JR 横浜線淵野辺駅北口周辺



青山学院大学陸上競技部優勝パレード

6 安全・安心

現状と課題

大野北地区では、青色防犯パトロールカーの導入による防犯パトロールの実施、「セーフティーエリア」指定による地域と金融機関、大学、警察と連携した防犯啓発活動の実施など、住民が主体となつての地域の安全・安心のまちづくりの実現に向けた取組が行われています。

しかし、自転車マナー違反者の増加、オレオレ詐欺をはじめとした特殊詐欺件数の増加などの課題が挙げられ、対策が求められています。

対応方策

交通安全の推進

- ・学校、自治会単位において、自転車事故防止を目的とした、教育、周知活動を実施する（市民・行政）
- ・自転車レーンの駐車車両の取締りを強化して、安心して自転車を利用できる環境をつくる（行政・その他）
- ・自転車マナーの周知の徹底、取締りを強化する（行政）
- ・「相模原市安全に安心して自転車を利用しようよ条例」について、親子で見て分かりやすい方法により周知を図る（市民・行政）

防災力の強化

- ・災害時における行動の基本ルールを策定し、自治会未加入者を含めた地域住民全体への周知を図る（市民・行政）
- ・避難所運営訓練への参加の呼び掛けを徹底する（市民）

防犯機能の向上

- ・地域と警察との連携を強化し、振り込め詐欺などの特殊詐欺防止対策を目的としたセーフティーエリア活動などの啓発キャンペーンを実施する（市民・行政・その他）
- ・青色防犯パトロールカーの巡回による住民の防犯意識の強化を図り、あわせて、夜間の防犯啓発パトロールを実施する（市民）



青色防犯パトロールカーによるパトロール



市道相模淵野辺線の自転車レーン

7 健康・医療・福祉

現状と課題

地区内に、病院や歯医者などの医療施設が充実してきています。さらに、高齢者支援センターの増設、相模野病院が神奈川県周産期救急医療システムにおいて中核病院として位置づけられるなど、医療・福祉環境の整備が進んでいます。

しかし、近年、高齢化の進展に伴う認知症の人の増加、歩道の段差や老朽化（亀裂等）、点字ブロックの老朽化などの課題が挙げられます。そのため、医療体制の強化、歩道の整備、高齢者への支援活動などが求められています。

また、地区内では、日頃の健康管理の取組として、ラジオ体操やいきいき百歳体操などが行われています。今後は、子どもから高齢者までを対象に、幅広い世代の参加を促進しながら、このような活動に引き続き取り組んでいくなど、健康づくりに関する活動を地域全体に広めていくことで、皆が元気でいきいきとした生活を送ることができる地域づくりが求められています。

対応方策

- ・専門医の充実した配置による、休日や夜間の医療体制の強化を図る（行政・その他）
- ・歩道や点字ブロックの不具合を解消し、歩きやすい空間を整備する（行政）
- ・点字ブロックの点検パトロールを強化する（市民）

- ・ 認知症の人への理解を深め、気軽に挨拶するなどの日頃の関わりあい
を深めることで、みんなで助け合う地域づくりを行う（市民）
- ・ 高齢者に対して、病院への早期受診を推奨する（市民）
- ・ 住民一人ひとりが健康に対する意識を高め、地域全体で健康増進を目的
とした活動に取り組んでいく（市民）



いきいき 100 歳体操

8 教育・子育て

現状と課題

大野北地区においては、青山学院大学や麻布大学、桜美林大学といった大学や市立図書館などの文教施設が立地しており、文教都市としての環境が充実しています。

しかし、地区の人口増加に伴い、待機児童対策や子どもの居場所づくりの推進などの子育て環境の整備が課題として挙げられており、対策が求められています。

対応方策

- ・ 保育士を養成し、子育て環境を整えるための人材を確保する（行政・
その他）
- ・ 人材バンクを組織し、地域と学校の交流の場をつくり、小中学生への
地域の歴史文化を継承する。（市民）
- ・ 様々な理由により就学できなかった人の学習の機会を提供する場とし
て、夜間中学の設置を検討し、高齢者や外国人などの多様な生徒の受

け入れ体制を整える（行政・その他）



あつまれおやこ（子育て支援事業）

9 【重点】生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

大野北地区は、地区内人口が6万人を超えているにもかかわらず、地区内の公民館が大野北公民館のみであり、諸室の稼働率も市内で最も高いことから、生涯学習や地域交流の場の提供が限られてしまっていることが課題になっています。そのため、施設の整備や既存の施設の有効活用などによる生涯学習の環境の充実が求められています。

また、地区の文化・歴史の若い世代への継承も課題となっており、イベントの開催や世代を超えた交流による周知活動が求められています。

対応方策

幅広い世代の交流の場、次世代の育成の場、地域住民と外国人の国際交流の場、地域活動の場などの様々な機能を兼ねた拠点として、淵野辺駅南口周辺に点在している図書館や公民館等の公共施設を集約、複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外へ文化を発信する交流拠点を創る（市民・行政）

子どもたちがボール遊びをすることができる場所や家族で楽しめるレクリエーションの場を確保するなど、地域のニーズに応じた公園、広場の利用方法の検討を進める（市民・行政）

- ・ 地域住民がアクセスしやすく、子どもから高齢者までが気軽に利用できる体育館などの運動施設を整備する（市民・行政）

- ・ 区内を散策するイベントなどを開催し、地区の文化や歴史を伝える（市民・行政）
- ・ 大学施設内における諸室の一般開放を市民へ周知する（行政・市民・その他）



市立図書館



区内散策イベント（中央区ぶら散歩）

10 地域コミュニティ

現状と課題

大野北地区内においては、「ふちのべ大学（青山学院大学、麻布大学、桜美林大学などの学生たちと地域の人が連携する大学）」が設立され、大野北銀河まつりなどの地域行事の運営に学生が参加するなど、地域内での世代を超えた交流が活発になっています。また、国際交流ラウンジが地域住民と外国人の国際交流の拠点や支援となり、子ども食堂が設立され子どもの居場所づくりにつながっているなど、地区全体において、住民個々の「共生」の意識が高まっています。

しかし、他地区同様、自治会加入率の低下、地域交流の希薄化などが課題として挙げられています。こうした課題を改善していくためにも、地域の担い手の育成、地域交流の活性化に向けた取組が求められています。

対応方策

- ・ 青山学院大学、麻布大学、桜美林大学などの学生と連携して、幅広い世代を対象とした市民教室を開催するなど、学生と地域住民との交流を図る（市民・その他）

- ・昔から地域に住んでいる世帯と新しく転入した世帯が混合した組織を作り、地域イベントの開催などにより、幅広い世代による地域交流を進める（市民）
- ・自治会加入によるメリット（防犯、防災等）の周知を徹底し、自治会加入率の増加を図る（市民・行政）
- ・地域清掃活動への学生の参加呼び掛けを強化する（市民・その他）
- ・児童館や自治会館を有効活用し、住民が集まる地域活動の場を確保する（市民）
- ・ふちのべ大学の学生と地域住民の連携を強化し、幅広い世代によるまちづくりを進める（市民・その他）



自治会加入促進キャンペーン



地域と学生の連携によるイベント運営
（大野北銀河まつり）

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月21日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	19名
6月26日	第2回 ・課題と対応方策検討 【ハード分野】	23名
7月17日	第3回 ・課題と対応方策検討 【ソフト分野】	19名
8月20日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	19名
9月18日	第5回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	20名

会議の風景

